

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	東京都
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	文京区立誠之小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	5	4	4	4	0	23	30
児童数	118	103	163	153	137	121	0	803	

研究の概要

1. 研究主題

学び方の基礎・基本を身につけ
互いに高め合う児童の育成
——— 国語・算数・英語活動を通して ———

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年：国語・算数・英語活動

選択の理由

誠之小学校が目指す学び方の基礎・基本を身につけさせるために、国語、算数は年間の授業時数が多く、基礎教科として研究の・実践の柱にしたいと考えた。

英語活動は文部省の研究開発学校として4年間、引き続き3年間の校内研究と計7年間に渡り、コミュニケーション能力の育成を目指して研究を進め、毎年の研究報告会、公開授業、出張授業等を通して、英語活動の指導法を発信してきた。児童がかかわり合いながら互いを高めていく研究を追究する上で、英語活動で培ってきた実績の上に立って、今回の研究を進めることは、誠之小学校の特性を生かした研究に相応しいと判断し、国語・算数英語活動の3つの方向から、研究テーマに迫りたいと考えた。

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年 度	<p>テーマ 学び方の基礎・基本を身につけ互いに高め合う児童の育成 —— 国語・算数を通して ——</p> <p>仮説 ノート指導や学び合うことを重点とすることにより、学び方の基礎・基本を身につけることができる。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>児童の実態分析</p> <ul style="list-style-type: none">・知識量が多く、理解力に優れ、学習への興味・関心が高い。・じっくり考えを深めたり、広げたりする意欲が継続しにくい。・考えや思いを表現する力や受け止める力が不足している。 <p>伸ばしたい力の分析</p> <ul style="list-style-type: none">・自分なりの考えをもち、表現する力・かかわり合って学ぶ力・自分を振り返る力 <p>本校がとらえる学び方の基礎・基本の定義</p> <p>まずは、自分の考えや思いをもつこと、それらを表現し伝え合うこと、互いがかかわり合って学び、高め合えるような学習の仕方や構え</p> <p>各自の実践と成果の共有化</p> <p>各自、国語・算数において「ノートづくりを通して思考を深める」「グループ活動を通して思考を深める」実践を行った。それらの成果を披露し合い、自分の実践に取り入れることに努めた。</p>
--------------------	--

平成 15 年 度	<p>テーマ 学び方の基礎・基本を身につけ互いに高め合う児童の育成 —— 国語・算数・英語活動を通して ——</p> <p>平成14年度は、学力向上フロンティアスクールとしての取り組みは、児童の学ぶ力、学ぶ意欲、本校教員の期待する児童像を明らかにすることに重点を置き、研究の方向、研究テーマを模索した。児童が相互にかかわり合って高め合うような学びの姿を追究する研究は、従来のコミュニケーション能力の育成を目指した英語活動のねらいとも合致するものと考え、研究に英語活動を加えることとなった。</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>本校がとらえる学び方の基礎・基本を身につけることによって、確かな学力を身につくと考える。</p> <p>互いに高め合う児童を育てるためには、意欲的に取り組めるような課題を工夫する。</p> <p>児童が自分の考えや立場を明らかしやすいように、課題提示の方法を工夫する。</p> <p>人の考えを受け止めたり、よさを取り入れたりしながら、自分の考え</p>
--------------------	---

を深めていくためのグループづくりや学び合いの場を工夫する。
「学ぶことが楽しい。」「よし、やってみよう。」という次への意欲につ
ながる学習環境づくりを目指す。

研究の内容・方法

仮説をもとに研究の日常化を図る。

国語・算数・英語活動の各研究分科会ごとに研究全体会にて研究授業
をそれぞれ4回、年間計12回行う。

研究全体会以外に、国語4回、算数4回、英語活動3回、専科（音楽、
1、図工2、理科2）4回、計15回の自主公開授業を行う。

授業力向上のため、授業参観、演習等の内容で国語1回、算数1回、英
語活動2回の校内研修を行う。

1学年の中でそれぞれが、国語・算数・英語活動の各研究分科会に所
属し、全員で研究を進める。

「研究だより」、学年会にて、各研究分科会での研究内容の情報交換
を行う。

年間指導計画の作成・教材開発を行い、教材教具の充実に努める。

授業公開、報告会、リーフレットの作成、文京区「文の京」明日を創
る教育のつどい」にて研究の発表等、研究の成果を発表し、普及に努
める。

研究を充実させるために昨年度の研究に何点か付け加えた。

平成
16
年
度

テーマ 学び方の基礎・基本を身につけ互いに高め合う児童の育成
—— 国語・算数・英語活動を通して ——

研究の見通し(仮説)

本校がとらえる学び方の基礎・基本を身につけることによって、確かな
学力を身につくと考える。

互いに高め合う児童を育てるためには、意欲的に取り組めるような課
題を工夫する。

児童が自分の考えや立場を明らかしやすいように、課題提示の方法を
工夫する。

人の考えを受け止めたり、よさを取り入れたりしながら、自分の考え
を深めていくためのグループづくりや学び合いの場を工夫する。

「学ぶことが楽しい。」「よし、やってみよう。」という次への意欲につ
ながる学習環境づくりを目指す。

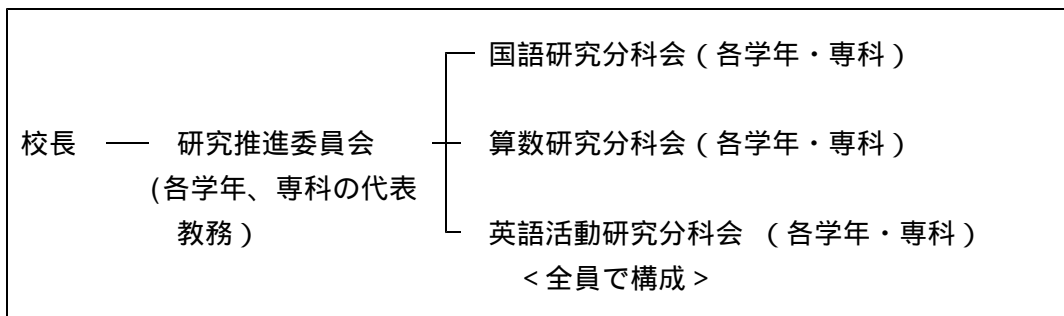
研究の内容・方法

仮説をもとに研究の日常化を図る。

国語・算数・英語活動の各研究分科会ごとに研究全体会にて研究授業
をそれぞれ4回、年間計12回行う。

研究全体会以外に、国語 4 回、算数 4 回、英語活動 3 回、専科（音楽、1、図工 2、理科 2）4 回、計 15 回の自主公開授業を行う。
 授業力向上のため、授業参観、演習等の内容で国語 1 回、算数 1 回、英語活動 2 回の校内研修を行う。
 1 学年の中でそれぞれが、国語・算数・英語活動の各研究分科会に所属し、全員で研究を進める。
 「研究だより」、学年会にて、各研究分科会での研究内容の情報交換を行う。
 年間指導計画の作成・教材開発を行い、教材教具の充実に努める。
 授業公開、報告会、リーフレットの作成、等で、研究の成果を発表し、普及に努める。

(3) 研究推進体制



平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

教員は学力のとらえ方を共通理解できた。
 学び方の基礎・基本を身につけさせるための指導方法がかなり定着してきた。
 他教科においても、互いにかかわり合って高め合う姿が見られるようになった。
 教員間で、今まで以上にどう授業を構築するかが話題に上るようになり、授業力の向上につながった。

2. 今後の課題

15 年度の研究をさらに深め、授業を通して仮説の検証を行う。
 国語、算数においては児童が意欲的に学習に取り組むために、さらに教材開発を進める。
 集団で学ぶことの効果が最大限に発揮できる指導のあり方を追究する。

学力等把握のための学校としての取組

学校としての学力のとらえ方を共通理解した。
伸ばしていきたい5つの力についての学習状況の把握に努める。
学習への達成感、満足度を適宜自己評価させ、児童の学習状況の把握に努める。
児童の学ぶ意欲や姿勢に、学び方について、保護者の視点でのアンケート調査を実施する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

「実践研究の概要、研究報告」についてリーフレットを作成し、本校の全家庭、地域、文京区内全小中学校に配付する。
文京区「文の京明日を創る教育のつどい」にて、研究発表を行う。
2月20日(金) 教員関係者対象に全学級、公開授業、報告会を行う。
2月24日(火) 保護者・地域対象に全学級、公開授業を行う。
本校のホームページに、研究の概要、内容について成果を発表する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無